

[ 成果情報名 ] マット植物に適するグランドカバープランツの栽培マニュアル

[ 要約 ] 根域のマット化が可能なグランドカバープランツ11種について、効率的生産のためのマット植物栽培マニュアルを作成した。

[ キーワード ] マット植物、グランドカバープランツ、栽培マニュアル、用土、施肥

[ 担当 ] 三重科技・農業研究部・園芸グループ

[ 連絡先 ] 電話 0598-42-6358、電子メール kamatm00@pref.mie.jp

[ 区分 ] 関東東海北陸農業・関東・東海花き

[ 分類 ] 技術・普及

---

#### [ 背景・ねらい ]

景気低迷の影響から生産が低下傾向にある植木産業を活性化させるため、早期緑化、エロージョン防止、雑草発生防止等植栽地における維持管理の軽減が可能となるグランドカバープランツを使用したマット植物（根域をマット状にした緑化植物）を開発する。

そこで、生産現場で活用し易いマット植物栽培マニュアルを作成し、新規規格商品として普及の促進を図る。

#### [ 成果の内容・特徴 ]

- 1 . グランドカバープランツ98種からマット植物として特に有望な特性を有する11種を選定し、栽培マニュアルを作成した（表1、図1）。
- 2 . 栽培は25×25×4cm・2連のプラスチック容器（T1トレイ）を使用し、植付時期を春期（4 - 6月）、栽培期間を6カ月以上、出荷時期を秋冬期（10月以降）とし、雨よけビニールハウスを使用する。
- 3 . T1トレイへの植付密度と苗形態について、植物毎に株分け苗、セル成型トレイ育苗苗利用による植付密度を明らかにした。マンネングサ類は植物体を細断し、ばらまき処理する方法で省力的な植え付けが可能である。
- 4 . 栽培用土の調整は、三重県で入手し易い山砂をベースとし、ピートモス、パーライトの配合比（容積比）の用土を植物毎に選定した。山砂2：ピートモス1：パーライト1の配合比を最適とするものが11種中5種で最多となった。配合用土はpH4程度の酸性を呈することから、植物種に応じて消石灰によるpH調整が必要である。
- 5 . 施肥管理は、被覆複合肥料を用土1L当たりN0.4～1.6g元肥処理する。
- 6 . 夏期（7 - 9月）遮光処理として、11種中9種は30%遮光、チシマタンポポは無遮光、オタフクナンテンは60%遮光が生育に最適である。

#### [ 成果の活用面・留意点 ]

- 1 . 水稻育苗用トレイの利用が可能であるが、根域をトレイ内にまとめるための不織布シート敷設や排水穴の加工等の対策が必要である。
- 2 . 出荷期を過ぎたマット植物は、緩効性化成肥料をN0.5～1.0g / 回 / トレイ追肥する。

[ 具体的データ ]

表 1 . グランドカバープランツのマット化有望種栽培マニュアル

植物名	植付密度 ( 苗形態 ) * 1	用土配合 * 2 ( 消石灰 g / L )	施肥管理 * 3 g / 用土リットル	遮光率 %	生育特性
ファイリヤブ <sup>ラ</sup> ン	3×3 株分け苗	1:1:1(0)	0.8-1.6	30	青花
シマカスガ <sup>ク</sup>	3×3 株分け苗	1:2:1(0)	0.4	30	
チシマツボ <sup>ク</sup> ホ	2×2 株分け苗	1:2:1(4)	1.6	0	長期開花・黄花・耐寒
リシマキ <sup>ク</sup>	2×2 セル挿し苗	1:1:1(0)	0.8	30	長期開花・黄花
オイトビ <sup>ク</sup>	4×4 セル挿し苗	2:1:1(2)	0.8-1.6	30	ツル性・気根登攀
メキシコマンネ <sup>ク</sup> グサ	25g 細断植物体	2:1:1(2)	0.4	30	耐乾性・黄花
ウツボ <sup>ク</sup> グサ	2×2 セル挿し苗	1:2:1(1)	0.4-0.8	30	長期開花・紫花
オタフクナンテン	4×4 セル挿し苗	2:1:1(1)	0.4	60	紅葉・矮性種
アガハ <sup>ク</sup> ンサス	4×4 株分け苗	2:1:1(1)	0.4-0.8	30	耐乾性・青花・矮性種
イ <sup>ク</sup> キシ <sup>ク</sup> ャコウソウ	4×4 セル挿し苗	1:1:1(2)	0.4-0.8	30	芳香性・紅葉
ミヤママンネ <sup>ク</sup> グサ	25g 細断植物体	2:1:1(1)	0.4	30	耐乾性・低草丈

- \* 1 : 栽培容器はT 1 トレイ ( 25 × 25 × 4cm - 2 連 : 用土量 5 L / 2 連 ) を使用。  
植付密度は25 × 25cm 当たり、セル挿し苗は128穴セル成型トレイで育苗。
- \* 2 : 用土資材は、山砂 : ピートモス : パーライトを容積比配合。
- \* 3 : 施肥管理は全量元肥とし、被覆複合肥料 ( ロング180日タイプ : 10-18-15 ) 使用。  
根長 : 定植時にファイリヤブ<sup>ラ</sup>ンは5cm、シマカスガ<sup>ク</sup> は12cmに調整した



図 1 . 栽培マニュアルの一例 ( ファイリヤブラン )

[ その他 ]

研究課題名 : 早期緑化のためのマット植物の効率的生産技術の開発

予算区分 : 国補

研究期間 : 1999 - 2002年度

研究担当者 : 鎌田正行、内山達也、千田泰義

表1. グランドカバープランツのマット化有望種栽培マニュアル

▶植物名▶ ▶▶	▶植内密度▶ ▶▶(苗形態)▶▶	▶用土配合▶▶▶ (山砂:ピートモス:パーライト)	▶施肥管理▶▶▶ ▶▶g/用土1㎡▶▶	▶遮光率▶ ▶▶%	▶生育特性▶ ▶▶
▶フイリヤブラン▶	▶3×3 株分け苗▶	▶1:1:1(0)▶	▶0.8-1.6▶	▶30▶	▶青花▶
▶シマカサカ▶	▶3×3 株分け苗▶	▶1:2:1(0)▶	▶0.4▶	▶30▶	▶▶
▶シマカサカ▶	▶2×2 株分け苗▶	▶1:2:1(4)▶	▶1.6▶	▶0▶	▶長期開花・重花・耐寒▶
▶リシマキア▶	▶2×2 セル挿し苗▶	▶1:1:1(0)▶	▶0.8▶	▶30▶	▶長期開花・重花▶
▶オオイボ▶	▶4×4 セル挿し苗▶	▶2:1:1(2)▶	▶0.8-1.6▶	▶30▶	▶ツル性・気根発根▶
▶ミヤママンサク▶	▶25g 細断植物体▶	▶2:1:1(2)▶	▶0.4▶	▶30▶	▶耐寒性・重花▶
▶ウツクサ▶	▶2×2 セル挿し苗▶	▶1:2:1(1)▶	▶0.4-0.8▶	▶30▶	▶長期開花・重花▶
▶オウゴン▶	▶4×4 セル挿し苗▶	▶2:1:1(1)▶	▶0.4▶	▶60▶	▶紅葉・緑性種▶
▶アカマンサク▶	▶4×4 株分け苗▶	▶2:1:1(1)▶	▶0.4-0.8▶	▶30▶	▶耐寒性・青花・緑性種▶
▶イブキマンサク▶	▶4×4 セル挿し苗▶	▶1:1:1(2)▶	▶0.4-0.8▶	▶30▶	▶芳香性・紅葉▶
▶ミヤママンサク▶	▶25g 細断植物体▶	▶2:1:1(1)▶	▶0.4▶	▶30▶	▶耐寒性・重花▶

※1:栽培容器はT1トレイ(25×25×4cm-2連:用土量5L/2連)を使用。▶  
植付密度は25×25cm当たり、セル挿し苗は128穴セル成型トレイで育苗。▶

※2:用土資材は、山砂:ピートモス:パーライトを容積比配合。▶

※3:施肥管理は全量元肥とし、被覆複合肥料(センテック180日タイプ:10-18-15)使用。▶  
根長:定植時にフイリヤブランは5cm、シマカサカは12cmに調整した▶

### フイリヤブランの栽培マニュアル



地上部の画像



根部の画像

**科名**  
ユリ科ヤブラン属  
淡黄色の花が安定しています  
新葉時期から10月まで「ふ」が美しい  
葉之花(9月開花)との調和がよい  
半日陰を好むが、陽地でも生育します

**栽培時の注意事項**  
分けつによって株が増えます  
乾燥には弱いため注意します  
苗の根長は5cm程度でよい  
定植時に葉1/2程度の切除でよい  
トレイは、25×25cm(2連)  
定植適期は3~4月

**栽培方法**

(1)定植密度  
1段を3株×3列(9株/トレイ)  
25×25cmトレイ条件  
定植後3ヶ月で出荷可能

(2)定植用土  
山砂:ピートモス:パーライト  
1:1:1  
三重で確保しやすい山砂を使用

(3)肥料  
被覆複合肥料180  
1.5g(成分)/用土1㎡  
全量元肥施用

(4)栽培の遮光  
30%程度の遮光がよい  
期間:移植時から3月まで

図1. 栽培マニュアルの一例(フイリヤブラン)